

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃ うりんこ		団体ウェブサイトURL
	株式会社 うりんこ		www.urinko.jp
代表者職・氏名	代表取締役 児玉 俊介		
制作団体所在地	〒 465-0018	最寄り駅(バス停)	宮根
	愛知県名古屋市中東区八前一丁目112番地		
電話番号	052-772-1882		
ふりがな 公演団体名	げきだんうりんこ		団体ウェブサイトURL
	劇団うりんこ		www.urinko.jp
代表者職・氏名	代表取締役 児玉 俊介		
公演団体所在地	〒 465-0018	最寄り駅(バス停)	宮根
	愛知県名古屋市中東区八前一丁目112番地		
制作団体 設立年月	1973年5月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 児玉俊介 運営委員長 佐々木政司 事務局長 西尾ひろみ		事 団員構成員:34名(演技部17名、制作部14名、 育休3名)、加入条件:一年間の付属演劇研究所 卒業と入団試験での合格
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	西尾栄儀 西尾ひろみ
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	中村敬子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	syousuke.urinko@gmail.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和48年 劇団うりんこ創立。 昭和51年 株式会社 劇団うりんこ設立。 昭和54年 劇団うりんこ付属演劇研究所創立。 昭和55年 名古屋市芸術奨励賞 団体賞受賞。平成 4年 愛知県芸術文化選賞受賞。 平成 7年 (社)日本劇団協議会入会。 平成13～15年 文化庁芸術団体重点支援事業。 平成18年 児童福祉文化賞「だってだってのおばあさん」 平成23年 名古屋市文化振興事業団『第27回 芸術創造賞』受賞 平成24年 児童福祉文化賞「ぼくってヒーロー？」 平成25年 児童福祉文化賞「ねむるまち」 平成29年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「ともだちやーあいつともだちー」 平成30年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「夜明けの落語」 令和2年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「きみがしらないひみつの3人」 令和3年2月 法人名を、株式会社うりんこ に変更</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>令和2年度:合計12作品327回(「小学校宇宙ステーション」56回 「こだぬきクロック」12回 「なんちゃってヒーロー」45回「わたしとわたしぼくとぼく」28回 「ともだちやーあいつともだちー」23回 「きみがしらないひみつの三人」34回 「クローゼットQ」8回 「ダイアルアゴースト」10回 「学校ウサギをつかまえろ」50回 「キッドナップ・ツアー」15回 「はなのき村」25回 「海彦と山彦」21回) 令和3年度:合計14作品534回(「小学校は宇宙ステーション」103回 「ドン・キホーテ」2回 「ともだちやーあいつともだちー」76回 「きみがしらないひみつの三人」68回 「なんちゃってヒーロー」106回 「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回 「ダイアル ア ゴースト」10回 「罪と罰」2回 「クローゼットQ」10回 「学校ウサギをつかまえろ」85回 「はなのき村」4回 「キッドナップ ツアー」9回 「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」17回 「海彦と山彦」6回) 令和4年度:合計19作品687回(「小学校は宇宙ステーション」122回「なんちゃってヒーロー」89回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」67回「ともだちやーあいつともだち」73回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」82回「きみがしらないひみつの三人」99回「大きなカブ?/パーティー」16回「クモばんぼとぎんのくつした」16回「学校ウサギをつかまえろ」6回「クローゼットQ」22回「罪と罰」2回「ダイアル ア ゴースト」6回「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回「ドン・キホーテ」4回「大切なあなたへーI need you !」8回「MARIMO」18回「しし丸どっかあん！」17回「うたうしじみ」1回)</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>愛知県立港特別支援学校2008年7月11日 愛知県立安城特別支援学校2009年2月18日 栃木県立那須特別支援学校2016年11月14日(本事業) 愛知県立豊橋特別支援学校2018年11月21日(本事業) 愛知県豊田市立特別支援学校2019年7月5日 大阪府立平野支援学校2021年9月7日(本事業) 三重県立豊学校2023年7月10日(本事業)</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/ouXp9iXAWZo</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団うりんこ】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	小学校は宇宙ステーション			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目:「小学校は宇宙ステーション」 原作:山田加代子「小学校は宇宙ステーション」(ポプラ社出版) 脚本・演出:佃典彦 美術:青木拓也 照明:四方あさお 衣裳:木場絵里香 音楽:内田ダヂ 音響:椎名KANS 公演時間 65 分			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	原作
	該当事項がある場合	権利者名 山田加代子「小学校は宇宙ステーション」(ポプラ社)	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>【あらすじ】 小学校4年生のイクミちゃんは、この頃学校が楽しくありません。アイドルを目指しているキララさんやマリナさんが、イクミちゃんに強くあたるのです。そんなイクミちゃんの学校の給食室で事件は起こりました。給食室の地下に、60年前に不時着した宇宙船があって、ホープ星人たちを星に返すために、イクミちゃんのおばあちゃんや学校の校務員さんが宇宙船を修理中だというのです。願い事が叶うというホープ星を目指して、おばあちゃんたちが地球脱出を計画していることを知ったイクミちゃんは「私も一緒に行きたい!」と言いました。地球にいてもいい事ないし、学校も楽しくないから宇宙に逃げ出したいと思ったのです。発射の時が迫りました。イクミちゃんを乗せた宇宙船は、本当に飛び立ってしまうのでしょうか? もう一度夢をみたい老人たちと、夢なんかないと思っっている小学生が、「夢」からエネルギーをもらう物語です。</p> <p>【みどころ】 クラスの子との軋轢を感じ学校生活を楽しくしていないイクミちゃんは、一度は地球から逃げ出したいと願いました。でも発射の時になって「逃げるだけでいいのかな?」と葛藤します。そして、友人関係の課題を乗り越えようと立ち向かいます。夢ができたことで立ち向かうエネルギーが生まれたのです。イクミちゃんの心の変化に児童生徒が、深い共感と感動を得る演劇です。歌やダンスも適所に入り、初めて演劇を観る児童生徒も集中を持続させ、演劇を楽しむことができます。</p>			
演目選択理由	<p>「私も同じ小学生で、夢がないのも同じだったので、自分の意見と比べて考えながら見ました」「私も何か夢をもって、それに向けて頑張れるようにしたいと思いました」これは、劇を観てくれた小学生の感想です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいことがないと感じていたイクミちゃんが、かなえない夢を見つけていく姿に、現代の児童生徒の多くが共感する演目です。 ・給食室の地下に宇宙船が埋まっているという設定は、日常のすぐそばにある非日常であり、児童生徒の興味や発想力を喚起し、心躍る観劇体験となる演目です。 ・小学生と祖父母世代が登場する物語で、世代を超えて「夢をもつこと」について語る場面は異なる価値観を持ちながら交流し、共感していくさまが描かれており、児童生徒のコミュニケーション能力の育成にも寄与する演目です。 ・移動する大きな冷蔵庫や、物語に合わせて回転し変化する背景など見ごたえのある舞台美術で児童生徒の想像力を喚起し、芸術鑑賞力の向上につながる演目です。 			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【共演の形態】共演の児童生徒は、10人程度(4年生以上)を予定しています。劇の冒頭部に児童生徒と一緒に創作する給食準備の場面で共演を行います。俳優と一緒に給食を受け取りに行く場面を演じます。今日のメニューや給食への期待を会話したり、食缶などを重たい様子で運ぶ演技をします。台詞は、児童生徒のアイデアを活かして作り、上演校独自の共演場面を創作します。</p> <p>【体験の形態】上演後、舞台の見学や舞台裏の見学を計画しています。劇中に変化する背景の仕掛けを間近で見学してもらいます。希望がある場合、音響のオペレーションを体験することも可能です。舞台装置の仕掛けを間近に見たり効果音などを出す体験は、舞台芸術への興味関心を強く喚起し未来の芸術家育成・観客育成につながるものと考えます。</p>			
出演者	高田博臣(ひろ〜み)、宮田智康、宮川希実、岩越由花、井上由貴(伊鶴由貴)			(カッコ内)は芸名
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名 スタッフ: 1 名 合計: 6 名	運搬	積載量: 3 t 車長: 6.38 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～11時		13時30分～ 14時35分	0分	15時～16時30分	16時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	11月	12月	1月	計	20日	
	10日	10日				
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10名
		鑑賞人数目安	400名

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

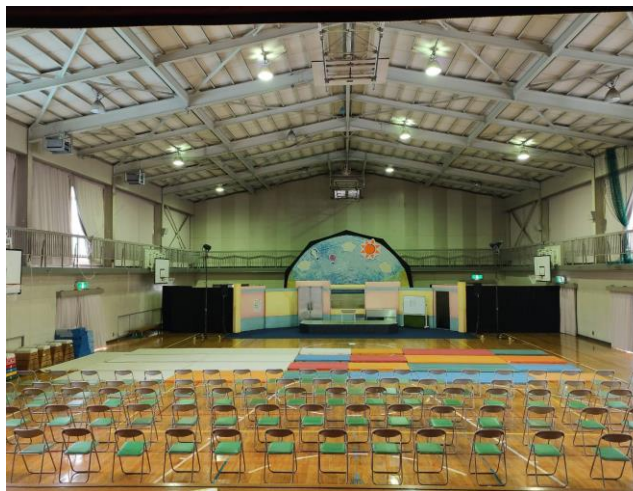
※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



図①

体育館のフロア（ステージの逆側）に舞台を設置した状態。
体育館の形状や鑑賞人数によって、設置場所を変更する場合があります。

舞台設置に必要な面積
幅 約14m×奥行 約11m



図②

体育館のフロア（ステージの逆側）に舞台を設置し、客席を設置した状態。
鑑賞人数に合わせて客席を設営します。
・学校のパイプ椅子等をお借ります。



図③④

上演の様子

・アイドルを目指しているマリナさんとキララさんがイクミちゃんに強く当たるので、イクミちゃんは毎日が楽しくありません。
・給食室の地下に埋まっている宇宙船。おじいちゃんおばあちゃんが集まって出発の時を迎えます。イクミちゃんは発射のボタンを押してしまうのでしょうか？

【公演団体名 劇団うりんこ】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40人(1クラス程度)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>【実施形態】 4年生以上、1クラス単位(40名程度)以内で行います。 小中学校でのワークショップ指導経験者が2名で指導します。 共演場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、子どもたちのコミュニケーション力や表現力向上をはかる活動を実施します。</p> <p>【ワークショップ内容】</p> <p>①ガイダンス ワークショップの目的を児童生徒に伝えます。</p> <p>②導入の活動 アイスブレイクのための活動を行います。ワークショップへの期待を高め、緊張をほぐすために行います。 児童生徒になじみの深い「じゃんけん」を使った活動です。</p> <p>③展開の活動① コミュニケーションを楽しむ活動を行います。 ペアで身体表現を楽しむ活動です。(例えば「ナイフとフォーク」) 想像を楽しむ活動を行います(例えば「見えない糸の操り人形」) 小集団で合意形成し、創作活動を行います。(例えば「フリーズフレーム」) 休憩(10分)</p> <p>④展開の活動② 共演場面の内容を伝えます。児童生徒のアイデアを活かし、場面内容にあったセリフを創作し、実施校独自の共演場面をつくります。 給食当番役が給食を取りに行くという、児童生徒が日常の中で体験している内容での共演場面です。日頃の会話や行動を想像して演技します。食缶などを重たい様子で運びます。 共演の児童生徒を決めます。 共演児童生徒が参加共演場面を演じます。他の児童生徒は見学します。</p> <p>⑤まとめ ワークショップのふりかえりを行います。</p>		
ワークショップの ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞をより豊かな体験とするために、想像力を育むことを目的とした身体表現活動を行います。 ・ペアでの表現活動や小グループでの創作活動を行うことで、言語によるコミュニケーション(受信と発信)や他者との合意形成の体験を提供します。 ・児童生徒のアイデアを活かした共演場面の創作により、自らのアイデアが共演場面の創作に活かされる体験を通し、発想力を育むと共に自己肯定感や自信を育みます。 <p>子どもたちが演劇を身近に感じ、興味関心をもって公演当日を迎えられるよう留意してワークショップを行います。子どもたちが主体的に楽しく活動できるよう親しみやすく分かりやすい進行に努めます。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは公演会場と同じ場所で行います。 ・ワークショップに参加する児童生徒は、動きやすい服装で参加してください。 ・ワークショップ実施前に、ワークショップの狙いや内容について学校側と共有し、ワークショップの円滑な実施のために担当の先生およびワークショップ参加児童生徒の担任の先生との打合せを行います。 		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団うりんこ

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>【芸術鑑賞機会の充実】 学校における芸術鑑賞実施率は新型コロナウイルス感染症の発生により激減し、いまだに芸術鑑賞行事の実施率は低いまです。また家庭の経済格差の広がりや地域格差の広がりが進み、子どもが芸術に触れる機会は均等とはいえない状況にあります。全ての子どもが芸術を鑑賞する機会を得ることは、国民の芸術鑑賞能力向上をはかる上で欠かせないことと考えます。文化芸術は、多様で寛容な世の中を作り出すために不可欠なものです。また、児童期に優れた芸術に触れることは将来の芸術家の育成に繋がるものと考えます。以上の点から本事業に申請し、芸術鑑賞能力の向上と、文化的な地域格差の解消に寄与したいと考えます。</p> <p>【芸術体験機会の充実】 ワークショップでは、演劇的手法での身体活動や言語活動を通じて、体感的に他者との関わりを学び、他者と協力して課題解決することで得られる喜びや楽しさを体験する事で、コミュニケーション能力の育成に寄与したいと考えます。共演においては参加児童のアイデアを活かし台詞や場面を創作することで児童生徒の発想力の育成を図ります。自分のアイデアが活かされる体験や他者のアイデアを受け入れ体現する事を通し、自己肯定感と自信を育みます。プロの俳優達と共演する体験は、その臨場感や高揚感と共に大きな喜びの体験となり、将来の芸術家育成に繋がる可能性のあるものと考えます。小中学校におけるコミュニケーションワークショップや児童生徒の表現活動支援などで講師経験のある者をワークショップ講師として派遣し、児童生徒の状態や学校の要望を詳細に把握した上で活動計画を立て、よりワークショップの効果を高める努力をし、芸術体験の充実に寄与したいと考えます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>【効果的に実施するために】 ワークショップ実施前に、児童宛に共演場面の内容を漫画とイラストで書いた手紙を送り、期待と興味を高められるよう工夫します。公演実施の前に公演演目のポスターを複数枚学校へ送り、校内に掲示してもらい、公演への期待を高められるようにします。 公演後に、児童生徒に「お楽しみカード」を配布します。お楽しみカードにはQRコードが付しており、演目独自の限定公開映像を観ることができます。演劇鑑賞後も持続した楽しみを用意することで、演劇への興味関心の継続を図ります。</p> <p>【円滑に実施するために】 実施校決定後、実施までのタイムスケジュールと実施内容を郵送します。ワークショップの2ヶ月前程に、ワークショップの詳細な内容や準備物、児童生徒への手紙を郵送します。ワークショップ実施に際しては児童の様子や留意しておくことなどを把握するため、担任の先生との打ち合わせ時間を設けます。公演開催の約1ヶ月前に公演会場の下見を行い、搬入経路や児童の入退場経路、当日のタイムスケジュールや準備物などを、担当の先生と詳細に打合せます。以上のことは、当事業の担当者2名が舞台監督と連携しながら一貫して行います。</p>
--	---